

2016 年度春季人権週間プログラム講演会

日時：2016年7月6日（水） 18:30～20:30

会場：立教大学 新座キャンパス N313教室

『性は一人ひとり違う —LGBT の視点から多様性を考える—』

講師 遠藤まめた氏（やっぱ愛ダホ！idaho-net. 代表）



【遠藤まめた氏 自己紹介】

○遠藤 よろしくお願ひします。遠藤まめたと申します。

きょうは90分ぐらひ、私のほうからお話をさせていただきながら、映像を見たり、途中で漫画のふきだしのコマを埋めるというミッションが皆さんに下されますが、楽しんで聞いてもらえたらと思います。

名前が遠藤まめたということで、中学校などに行くと生徒が爆笑して、「エンドウ豆の授業はここか」と言って笑われたりします。苗字が「遠藤」なので、エンドウ豆から、「まめた」というあだ名が小学校のときについてしまいました。私は、戸籍上は女性の名前がついていましたが、「まめた」のほうが格好いいと思って、それ以降、この名前で活動しています。

きょうは「性は一人ひとり違う」ということで、「性」って何か、いろいろなイメージがある言葉なのかなと思います。性別の「性」、生き方の、「りっしんべん」が付く「性」がどうということなのかをみんなで考えたい。最近、LGBT の話題をニュースで聞く機会が増えていると思います。いわゆる性の少数派といわれる人や、多数派といわれる人が、今、どういう状況にあるのかという話から、いろいろ考えられたらいいかなと思います。

【10代から子どもや若者支援活動に取り組む】



自己紹介ですが、1987年生まれで、横浜に住んでいます。埼玉出身で、最近『翔んで埼玉』という漫画を読んできると面白かったです。時々、関西弁が混じるのは、大阪に住んでいた時期があるからです。

だいたい18歳ぐらひのときから、きょうお話する多様な性についていろいろ活動してきました。特に私は、子どもや若者のサポートをしてきました。写真は、大阪の御堂筋を仲間たちと一緒に歩いているところで

す。これは「関西レインボーパレード」といって、LGBT、セクシュアル・マイノリティの人でもそうじゃない人も、いろいろな人が自分の性を祝福して歩くというパレードです。雨が降っていたのですが、傘を差すのを忘れてニコニコ歩いています。一緒に歩いているのは、高校生です。このときは若者のグループと行きました。朝日新聞の「人」欄に、おとしぐらひに自分が約10年LGBTの活動をしてきたことが載りました。

【5月17日 “多様な性にYES!の日”（やっぱ愛ダホ!）キャンペーン】

私の活動は、大きく分けると2つあります。1つは、若者と子ども、セクシュアル・マイノリティの人たちのサポートです。もう1つは、毎年、5月17日は「多様な性にYESイエスの日」というキャンペーンをやっていることです。今、日本には7月6日のサラダ記念日など、いろいろな記念日がありますが、この5月17日は何かというと、“国際的に多様な性”について考えてもらう記念日で、英語の名称は“International Day Against Homophobia and Transphobia”というのですが、ちょっとなじめないで「多様な性にYESイエスの日」という名前で日本では登録されています。二十歳のときから関わって、今年でちょうど、10年目のアクションとなります。

何をしているかというと、全国各地のいろいろな人から、多様な性についてのメッセージが大体100通とか200通ぐらい集まります。その中には、セクシュアル・マイノリティの人、セクシュアル・マイノリティじゃない人、子どもがゲイだというお母さん、妹が弟になったというお姉さん、友達からカミングアウトされたという人たちがいたりします。本当にいろいろな人がメッセージを書いてくれて、それを街で読むという活動をしています。公民館で展示をしています。きょうはその最初に「愛ダホ!」の話をしたなと思っています。



写真は新宿の駅前でメッセージを読んでいるところです。結構いろいろなメッセージがあって、あるレズビアンの方は、自分は女の子同士付き合っていてよかった。何がよかったかというと、洋服の貸し借りがカップル同士でできるし、旅行に行ったときに一緒にお風呂に入れるなど、面白いことを言っています。あるゲイの方は、「俺がゲイだって言うと、まわりの男はみんな『俺のこと好きなんだろう』っていうふうに勘違いする。俺にも好みがあるんだ」というふうに怒

っていたりします。笑わせるメッセージをくれる人もいれば、泣かせるメッセージをくれる人もいて、みんなで毎度交換しています。福島県に「女と男の未来館」という公共施設があるのですが、その「女と男の未来館」で、集めたメッセージを展示しました。福島県ではあまりゲイ、レズビアン、セクシュアル・マイノリティの情報発信がなかったのですが、当事者の人たちがこういうのをやりたいというふうに企画を持っていったら、その未来館の人が喜んでくれて、こういういろいろな人の声が出てくるのはすごく大事なことからと言って、「常設展示にしたい」と言い始めて、結局、長期間、メッセージ展を開催することになりました。今週は青森県でメッセージ展をしています。青森は結構大変です。都会と地方を比べると、比較的都会のほうがいろいろなことが自由ですが、地方に行けば行くほど、LGBTの人やセクシュアル・マイノリティの方は、なかなか自分のことを理解してもらいが難しかったりします。そんな中でも青森で頑張っている友達がいて、今週末、青森でも一日、LGBTの映画を流すフェスティバルがあって、一緒にこのメッセージを展示します。

その下は和歌山ですね。和歌山は、なかなかローカルな場所ですけれども、和歌山県でも最近、このアクションをやっています。和歌山では、地方紙をみなさんが読んでいるもので、

地方新聞に出て、この日があるということを和歌山の人結構知っているみたいです。
愛ダホ！記念日のアクションとして、私が10年ぐらやってきたのは、こういうものです。

【国連のメッセージ】

<https://www.youtube.com/watch?v=0Bd3uMci7y0&index=1&list=PLNeOpDYSfDiuSZA4woHk21HxJ3LCXh-Zx>

今年は国連がこの5月17日の国際的な記念日に合わせて、感動的なミュージックビデオを出しています。

それを最初にちょっと見てほしいと思い紹介します。世界中でやっている記念日なので、私たちは駅前でメッセージを読んでいます、ほかの国でもいろいろなことをやっています。みんながなぜそんなに一生懸命、この日にいろいろなことをやっているのかというのをみんなに聞いてみたというビデオです。国連がつくったものです。

【ビデオ上映】

○遠藤 世界中のいろいろな人がいろいろなことのために闘ったり、ちょっと楽しそうな人もいたり、結構ガチで闘って、独りでやっている人もいれば、踊っている人、いろいろな人がいました。

国際的な記念日に、いろいろな国でいろいろな人がいろいろなことのために一緒にやっています。映像には、例えばロシアやウガンダの人、ジャマイカの人も出てきました。ロシアについては、聞いたことがあるかもしれませんが、かなりLGBTの人に厳しいのです。ロシアでLGBTの人が、カミングアウトしたり、あるいはLGBTについて教えたりすることを禁止する法律があったり、ウガンダに至っては、男性同士でセックスしたことがばれれば、捕まえて懲役何年、最悪、終身刑という法律ができて、それが覆ってなくなったり、また可決されそうになったり、同性愛について、世界中で罰している国というのは実はたくさんあります。世界中で一緒に活動している仲間の中には、LGBTの人が罰せられる対象になってしまう、そういう国が70カ国ぐらあって、そういう中で活動しています。ジャマイカの人には踊っていますが、偏見による殺人事件があったり、LGBTの話題は、世界的に見ても状況が全然違い、宗教や、文化、いろいろなことが絡んでそういう状況になるという話題でもあります。

最後に、これは国連事務総長の潘基文が、署名して何か出していましたけど、ここで潘基文が感動的なスピーチをしています。彼は何かというと、おじさんです。おじさん世代は、「ゲイ、レズビアン、トランスジェンダーなんてことを公の場所で言うんじゃありません」と言われて育ってきました。でも、私はもう、これを言わざるを得ない。なぜかといったら、LGBTのことを知らないでいる、そのことを守らないでいるということは、本当にいろいろな人を傷つけたり、その人の命を、人生を台無しにしたりすることなので、時は来たれり Time has come、みんなが語り出すような時代が来たんだということを

いています。世界中でいろいろな論点があって、いろいろなことを考えなきゃいけないのが、実はきょうお話しするテーマでもあります。

【きょうの話の3つのパーツ

—多様な性の基礎知識・大人になるまで・みんなにできること—

きょうの話は、3つのパーツに分けてみました。そもそもLGBT、多様な性というのは何なのかという話をします。聞いたことがない言葉が出てくるかもしれないので、ちょっと難しいかもしれませんが、最初にこの話をして、次に、私が主に活動してきたテーマである、LGBTと子ども、若者の話をします。



LGBT、セクシュアル・マイノリティと言うと、本当にいろいろなテーマがあって、例えば同性婚の話などはすごく話題になります。同性同士でも結婚できるようにしようと動いていて、話題になることが多いのですが、そもそもLGBTの人が今も日本で生きている。どういう状況なのかなということをもみんなに考えてもらいたいと思います。それが大人になるまでの話で、次に、何かみんなができることを考えたほうがいいんじゃないかと思い、ここでワーク的なことをやってみたい、みんなで頭を使って考えたいと思います。最後に質疑応答の時間をつくりたいと思います。

【LGBT（セクシュアル・マイノリティ）ってどんなイメージ？】

そもそもLGBT、セクシュアル・マイノリティの知識の話ですが、みなさん、どういうイメージなのかと思って、並べてみました。今の日本にいる人が、セクシュアル・マイノリティ、LGBTと聞いたときに、どういうイメージを持つか。ゲイ、レズビアン、性同一性障害、そういう単語を聞いたときに、いろいろなイメージがあると思います。ある人は面白い、楽しい人、テレビに出ているマツコ・デラックスが好きで、あのように鋭く、センスがあって、優しい、みたいなイメージを持っているでしょうが、私の友達のゲイの人は、ファッションセンスがない。ファッションセンスがないから、ゲイだと言っても、「えっ、ゲイってファッションセンスがあるんでしょ」と思われてすごくつらい。恋愛のアドバイスしてほしいと言われるけれども、できない。女友達の恋愛の話は興味ない、なんていう人がいたりします。ゲイの人に対しては、悲しいですね、「キモい」なんていうイメージも持たれています。また、すぐセックスする人だと思っている人もいます。そんなこと、人によりますね。すぐセックスする人はべつにセクシュアル・マイノリティだろうが、マイノリティじゃなかろうがいますし、しない人はしません。

セクシュアル・マイノリティと聞くと、「それって幸せになれるの？」「それはいばらの道を歩いていくようなものではないのか？」と思う人もいます。

何かよくわからないけれども「性転換手術するんじゃないか」というイメージであったり、きちんと習ったことがない人、聞いたことがないから、みんながばらばらなことを思っているというのが現状です。

【海外では？】

実際どうなのですかという話ですが、きょうは最初にミーハーなことをしようと思って、セレブを持ってきました。これは海外で、LGBTだとカミングアウトしている人たちの写真です。



澤選手は関係ありませんが、その横にいる人がワンバックという人で、アメリカの女子サッカーの超強い人で、女の人と結婚して、相手も女子サッカーの選手です。海外でLGBTの有名人というと、例えばスーパースターの選手が出てきたり、レディー・ガガ、すごくアーティスティックな人ですけど、彼女はバイセクシュアルだということを言っています。バイセクシュアルとは何かとい

うと、恋人が男性だったり女性だったりする人ですね。同性の人にもドキドキするし、異性の人にもドキドキするという人です。

ムーミンの絵が出ていますが、ムーミンの作者のトーベ・ヤンソンさんは、もう亡くなった方で、彼女もバイセクシュアルだということがわかっていて、トーベ・ヤンソンが人生の後半一緒にいた人は女性でした。彼女が生きた時代は同性愛の人は、そもそも法律違反だったり、彼女がもっと若い時期はナチス・ドイツがいて、ナチス・ドイツは同性愛者をホロコーストで殺したりしていました。トーベ・ヤンソンはナチスの風刺画を描いていた人で、大変厳しい時代に生きていましたが、トーベは自分が同性のパートナーと過ごしていることを一切隠さなかった。同性愛がネガティブに思われているときでも、彼女のアートが評価されて、表彰式のようなお祝いの式に呼ばれると、その同性のパートナーと一緒に参加していたという人です。そういう偉大な人もLGBTの人として知られています。

この隣、知っていますか。『マトリックス』の監督です。『マトリックス』の監督は兄弟でしたが、今は姉妹になりました。トランスジェンダーとして有名な人の21人です。

ジョディ・フォスターはレズビアンで、女性のパートナーがいて子育てをしています。この人も、さんざん、「あの人、レズビアンでしょう」とみんなが言っていたのに、カミングアウトしたのは、セミリタイア宣言と同時でした。それは何を意味するかというと、彼女ほどのセレブであったとしても、カミングアウトして自分のキャリアをやっていくことがプレッシャーになったということだと思います。男性と結婚していませんが、人工授精で子どもが2人いて、女の人と暮らしています。どこからどう見ても、あの人たちは家族でしょう、付き合っている人でしょ、みたいな状況だったんですけども、なかなか言わなかった人です。

イアン・ソープがいます。イアン・ソープはゲイであることをカミングアウトして、実はカミングアウトしたのと同時に、自分はひどいアルコール依存症だったこと、鬱病だっ

たこと、すごく死にたかったことをカミングアウトしました。自分がゲイだということを受け入れられないという気持ちがひょっとしたら関係しているんじゃないかなと思います。

ダンブルドア校長、ハリー・ポッターの校長先生ですが、ダンブルドア校長もゲイという設定だったり、皆さんが持っている iPhone をつくっているアップルという会社の社長はティム・クックという人で、彼は世界一金持ちのゲイと言われているんですが、会社の社長にもそういう人がいたりします。

【日本と海外、欧米圏の違い】

何を言いたいかというと、日本だとちょっとオネエタレント、キワモノ的な扱いをされることがまだまだ多いのですが、海外だと、いろいろな職業の人、サッカー選手、アーティスト、魔法使い、社長、映画監督と本当にいろいろな人がいるということが知られているというのは、日本と海外、欧米圏の違いがあるのかなということです。

それは何の違いかというと、日本だと、サッカー選手がカミングアウトできそうかって考えると、結構ハードルが高そうな気がします。日本の会社の社長がカミングアウトするという例は、そんなにまだまだポピュラーな話じゃないですよ。子どもたちの漫画をつくっている人がカミングアウトするかといったら、あまりそういう話も、日本には多分ないと思います。だから、海外だと言いやすかったり、受けとめやすい社会だと言えるのです。そういうのが受けとめにくい社会では、日本にも、本当はいろいろな人、LGBT の人が同じぐらいいるはずなんです。だけと言えないというのは、そういうことなんじゃないかなと思います。

ここで言いたかったのは、セクシュアル・マイノリティの人へのイメージは国によって全然違うということです。欧米圏はこう、日本だとさっきみたいなイメージ。じゃあ同性愛が禁止されているような国でどういうイメージかというと、もっとすごい最悪なイメージ、めちゃめちゃ悪いやつ、みたいになっています。国によって、社会がその人たちのことをどう見るかによってイメージが変わっちゃうということです。本来、マイノリティの人たちがどんな人たちかということではなくて、社会の側が、どういうまなざしで人を見るかによって、マイノリティの人はイメージが変わります。

【「性」の構成要素は3つ：①生物学的な性、②性的指向、③性自認】

この辺からお勉強っぽくなります。では性とは何なのかという話をしばらくしたいのですが、一口に性といっても、いろいろな要素があります。きょうご紹介するのは3つ要素があるのですが、1つ目は「生物学的な性」という要素です。これは生物学的というぐらいだから、例えば遺伝子、DNA というふうにかかれていて、体の性別のことを言います。性染色体が XX だったら大体女性ですし、XY だったら男性ですし、ペニスがあれば男性というのが体の性別です。調べたらわかるものです。

これだけじゃなくて、2つ目が「性的指向」といいます。「指」が「向(く)」という漢字を使って指向というのですが、趣味趣向、たばこの嗜好品とかの「嗜好」じゃなくて、

「指向」という漢字を使うのは、多分ここでしか使わない言葉かもしれないですが、それは何かというと、どんな性別の人を好きになるのかということです。性的指向と言います。

3つ目は性自認といいます。性の自分の「自」で「認」めるで、自分のことをどういう性別の人だと認めているか、どういう性別の人だと思っているかということです。これは簡単には「心の性別」というふうに言います。この3つを知っていると、LGBTのことはだいたいわかると思います。

【性的指向（だれが好きか）：LGBTの人は人口の約3～5%はいます】

詳しく説明していきたいのですが、1番は飛ばして、2番の性的指向の話をする、まずだいたい人は一応、異性が好きということになっています。男性だったら女性が好きで、女性だったら男性が好き人が多い。そういう人たちのことは異性愛者と言います。異性を愛する異性愛者です。英語だと Heterosexual というふうに言います。ただ、みんながみんな、異性を好きなわけじゃなくて、中には同性が好き人も一定数います。あるいはどっちも好き、恋愛するときに、べつに相手が男とか女とか関係なく相手のことを好きになるという人もいますし、そもそも恋愛に興味がないという人もいます。同性が好きで、男の人で男を好きな人のことをゲイ、女の人で女を好きな人のことをレズビアンというふうに言います。どちらも好きな人のことはバイセクシュアルと言います。

同性が好きだったり、同性も異性も好きだったりする人は、だいたい人口の3～5%ぐらい、どこの国でも、どこの文化でも、どこの社会でも、どこの時代でもいるというふうに言われています。いろいろな研究があるのですが、あまり増えたり減ったりしないです。3～5%はどれくらいいるかというと、左利きの人と同じぐらいです。だから左利きの友達がいなかったり、そんな人、テレビの中でしか見たことないし、左利きの人ってファッションセンスいいらしいよ、みたいなことないじゃないですか。いろいろなことを言われたり、勝手にまわりにはいないと思われているので、ゲイやレズビアンの方は言わないとわからないし、偏見があつてなかなか言えないという、見えない、見えにくいから、左利きぐらいにカジュアルには知られていないのかなと思います。

これは自分の意思では変えられないんです。多分、恋愛するときに自分の意思で、何かいろいろなリストがあつて、この人が私の理想のリストに合ったから、この人と恋に落ちます、落ちました、みたいなことってないじゃないですか。自分で決めて恋する人いませんよね。それはどんな人に対してもそうだと思います。同性が好き人も、べつに、「よし、同性好きになろう」と思って同性好きになっているわけじゃないし、異性が好きな人も、「よし、異性を好きになろう」と思って異性を好きになっているわけじゃない。恋って気がついたら落ちているものだと思うんですけど、自分の意思じゃ変えられないですね。

【WHO 宣言：1990 年 5 月 17 日 “多様な性に YES の日”】

昔、同性愛者を異性愛者に変えようとした時期がありました。1990 年の 5 月 17 日まで変えようとしていました。「多様な性に YES の日」までは、世界では同性を好きになるということは精神的な病気とされていて、みんなが変えようと頑張っていました。薬を飲んだら変わるのではないか、電気ショックをビリビリとやったら異性を好きになるんじゃないか、いろいろなことをやったんですけど全部だめでした。だめで、さらにその人の、その人らしさみたいなものがすごく傷つけられるということもわかりました。そういうことをひたすらやっているうちに、何でこんなことをやっているの、別に治さ直さなくてよくない？ということにみんなが気がついて、そもそも治すものではなくて、人間の多様性の 1 つであるということを知った。これを 1990 年の 5 月 17 日に WHO が宣言しました。これは変えるものでもないし、変えられるものでもないし、その人らしさみたいなものをつくる、すごく大切な部分というふうになったわけです。

恋愛に興味がない人もいて、エイセクシュアルといいます。これはなかなか難しいのですが、生まれつきそうだという人もいれば、別に生まれつきじゃないという人もいます。エイセクシュアル (Asexuality) の中でよく、生まれつき派、ノット生まれつき派で、もめます。お坊さんとかシスターとか、歴史的に性的であってはいけない人たちは、性的なことを考えると罪悪感に駆られてあーっとなっちゃって、自分で自分を律するためにエイセクシュアルでいざるを得ないという人も中にはいたりします。彼らはノット生まれつき派ですが、生まれつき派は、もう全然恋愛に興味なくてもハッピーみたいな人です。

面白かったのは、数年前に「超イケメン過ぎるエイセクシュアル」みたいな人の話が海外で話題になりました。みんなが、「エイセクシュアルの人は、もてないから恋愛をしないのではないんだとわかった」、とネットでコメントしていましたということがわかったみたいなことがネットで出ました。それを見たエイセクシュアルの人が怒って、「イケメンだから納得したとか、そういう話じゃことでもないだろう」と言っていました。何が言いたいのかというと、恋愛に興味がないというの、結局、本当に、社会的な要素とか、病気して恋愛、性欲がなくなっちゃったとか、年齢とともになくなっちゃったとか、いろいろな要素はあるのですが、そういう人は一定数います。

以上がこれは性的指向の話です。だから、みんながみんな異性を好きというわけでもないし、みんながみんな恋愛したいわけでもないという感じです。

【性自認（こころの性）とトランスジェンダー（性同一性障害を含む）】

それでは、性自認の話です。これは全然、恋愛は一切関係ないです。自分が自分のことをどういう性別だというふうに思うかです。だいたい「あなたの心の性別は何ですか」と聞かれるとみんな困ると思います。「そんなもの考えたことない。とりあえず男として生まれてきて、男として育ったし」とか、「私ずっと女だったし」みたいなことでとまっている人が多いかと思っています。けれども、中にはですね、「あなたの性別何ですか」と聞かれて、それが結構、壮大な問いになっちゃったり、「うーん…」という人もいたりします。何かというと、べつにこれは体の性別と一致しているとは限らないからです。ある人

は男の子として生まれたけど、自分のことは女だと思っていて、もう女として生きていたりするし、逆に女として生まれたけれども、自分のことを女だと思えないとか、結構いろいろあります。180度あっちって思っていることもあれば、120度ぐらいあっちだったり、つまり完全にあっちというのではなくて、女じゃないけれども、とりあえず男かっていうと、男でもないし、だいたい男、とかいろいろありますけれども、性自認のあり方は人によって結構違います。

性自認という心の性と体の性が違う場合、心の性別のほうに合わせて生きていきたいという気持ちがあったりするので、社会的には、体の性ではない性として生きていこうとしたり、自分の体に対するコンプレックスがあったりします。体の性別ではない性別で生きていこうとする人のことをトランスジェンダーというふうに言います。トランスジェンダーの人のことを、医学的には性同一性障害という言葉を使ってあらわすことがあります。だから、トランスジェンダーの中でも、診断を受けていない人は、性同一性障害という診断に当てはまるわけではないです。だいたいどれくらいいるかというところ、数百人から数千人に1人ぐらいです。トランスジェンダーの人は、一番多い数字だと300人に1人、一番少ない数字だと数万人ぐらいまで桁が下がります。それは性別を変える手術を望む人の割合ぐらいですけど、ゲイとかレズビアンの人よりはちょっと少ないぐらいです。

性自認というのも自分の気持ちで変えられません。「私、きょうから超男っぽいマインドで生きる」とか、「男の心で生きる」とか、「女の心で生きる」とかは変えられないので、大切なその人の部分で、変えられるものは見た目です。自分がこの体をコンプレックスですごく嫌だと思ったときに、その体の見た目を変えることはできます。これが性自認の話です。

私はトランスジェンダーです。女性として生まれたけど自分のことを女だと思っていないですね。これが性自認です。

【性的指向と性自認の2つは別モノ！】

3つ話したのですが、性的指向の話は恋愛の話でした。性自認の話は恋愛とは関係ないという話をしましたが、まったく別物です。私は、トランスジェンダーです。女性で生まれました。男性です。というときに、じゃあ私は一体、彼氏がいるのか、それとも彼女がいるのか、みたいなクイズをすると、女から男になったから、とりあえず女じゃないか、女が好きなんじゃないか、みたいなことをみんな思ったりします。どうかというところ、私は女が好きなんですけど、この見た目で、こういう感じで、男が好きだというトランスジェンダーの人もいます。バイセクシュアルの人もいます。右手と左手のようなもので、性的指向が右手で性自認が左手だとすると、別に右手のほうに誰を好きになろうか、自分の心の性別がどうであろうか、両方いろいろあります。だから、トランスジェンダーでゲイの人、つまり女から男になって、男がめっちゃ好きという人がいたり、逆に男から女になって女の人が好きという人もいたりします。この辺を考えると、だんだんわけわからなくなってきて楽しいですね。わけわからないのが正解だと思います。結局、突き詰めると、本当に一人一人違うし、だからその人に聞くしかないですね。

その人に聞くしかないのに、テレビを見ていると、オネエタレントってみんなごちゃまぜで、男から女になった人もオネエだし、男で男を好きな人もオネエだし、オネエタレントって男が好き、みたいになっていませんか？けれども、実際には、男性から女性になる人の半分ぐらいは女の人を好きだったりします。結婚したりもします。結婚していて、旦那が性別変えたりするときに、奥さんは、「エーッ、あんた男好きだったの？」みたいになるのですけれども、「べつに全然、妻を愛しています」みたいなことがあったりします。恋愛の話と心の性別は実は全然関係ないのですが、なかなかその辺が難しいです。

私の友達で、男の子として生まれて、今、女の子として生きている友達がありますが、彼女は小学生のときにテレビでニューハーフの人を見つけたんです。ニューハーフというのは、トランスジェンダーの女性で、そのことを売りにして水商売をしている人ですね。

「あ、私これや、私はニューハーフや」と思って、そのときにふとある壁にぶつかりました。彼女は女の子が大好きでした。もう好きで好きでしょうがなかった。ニューハーフで女が好きというのは成り立つのかと思って、「じゃあ私はニューハーフじゃない」と思っていたら、高校生のときに、ニューハーフでレズビアンだという有名人を見つけました。

「私はレズビアンや」と思って、「そのときに自分がニューハーフであることを確信した」と言っていました。まあ、そういうこともあります。本当にパターンとかバリエーションはいろいろあります。同性愛の人を見て、レズビアンだ、ゲイだと言われて、それって男になりたいの？！女になりたいの？！男心がわかる、ゲイは女心がわかる？！とか言われる言ことがあるうけれども、別に同性が好きであることは、その人がどんな性別で女として生きたい、男として生きたいということとは別です。ジョディ・フォスターはこの人たちは、多分女に見えるし、イアン・ソープは男に見えると思うんですが、ゲイやレズビアンの人が、必ずしも男っぽい、女っぽい、男っぽい、そういうことではないです。よくまざりやすいので、この辺は分けたいなと思います。本当に性別はいろいろあるのだという話です。

いろいろあるという話をして、異性が好きな人、いわゆる多数派と言われている人のことを考えても、別に異性が好きな人でも、本当にいろいろな人がいます。私の職場の隣の席の人は、心の性別も体の性別も男だと思うのですが、キティちゃんの大ファンなんです。キティちゃんのネクタイをしていました。私はキティちゃんのネクタイというのが市場に流通しているということが、ショックでした。彼がオーダーメイドで頼んだのならわかるのだけれども、それが成り立つということにすごく衝撃を受けたんです。本当に男にもいろいろな人がいるし、LGBTやセクシュアル・マイノリティはいろいろだよという話をしています。宝塚ファンの主婦は、べつにみんながレズビアンじゃないですし、多数派の人も本当にいろいろな人がいると思います。

そもそも一人一人違うのだけれども、とりあえず違いにはこういうのがあるんだよということを知っておいてほしいなと思います。

【LGBT という言葉の意味：分類よりもその人の話とその人の真実】

最初からガンガン LGBT と言いまわっていますけど、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人の頭文字を並べて LGBT と言います。要するに誰が好きか、自分がどんな性別なのかということにおけるマイノリティの人のことを LGBT と言います。だけれども、そもそも一人一人違うので、言葉として知っておいてもらったらいいですね。

私はこの話をして、自分の生い立ちを話すときがあります。小学生のとき「赤いランドセルが本当に嫌で」と言うと、「わかるわかる」みたいな人がいたり、「自分スカートすごく嫌で」って言ったら、「私も超わかる」、べつにあなたはトランスじゃないじゃんみたいなことがありました。中学になって、女子校ですけれども、好きな先輩ができて、女の先輩ですけれども、「私も超わかる」みたいな、その人はべつに LGBT って今思っていないけれども、それなりに人にはそれぞれ違いがあったり、共鳴できるものがあったりします。だから、多様なのは少数派の人だけが多様なんじゃないくて、みんなが多様だということは基本かなと思います。

【海外や日本の LGBT への支援活動】

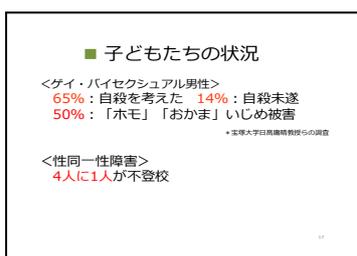
レディー・ガガが「Born This Way」という曲を出しています。そのジャケットを持ってきてみました。知っていますか？「Born This Way」というのは、障害がある人も、いろいろな肌の色の人も、いろいろな国籍の人も、LGBT やそうじゃない人も、こうやって生まれたんだぜ、イエーイ！ Born This Way というからすごく先天的な感じですよ。生まれながらに LGBT だけ、べつに LGBT は生まれつきかどうかは解明されていないけれども、ほぼ自分の意思じゃ変えられないから、そういう運命だとすれば、そのとおりなんです。こういうメッセージソングが出たり、海外セレブは、オバマ大統領が YouTube で、LGBT の若者にメッセージを出したことがあります。

ハリー・ポッターのダニエル・ラドクリフは、NPO「トレヴァー・プロジェクト」に、これは「いのちの電話」ですが、巨額の富を寄付しています。意地悪なマスコミがいて、「ねえねえ、ダニエル・ラドクリフ、じゃあ君はゲイなの」と質問をするんです。べつにダニエル・ラドクリフはイエスともノーとも言わなかったりします。イエスとかノーとかどうでもいいじゃないですか。そういう質問すること自体がおかしいじゃないですか。だから、イエスともノーとも言わなかったり、海外ドラマの「グリー」では、ゲイとかレズビアンカップルが出てきたり、かなりいろいろなメッセージがおもてに出たりしています。

日本でもちよつとずつ出てきて、この前見たのは、お笑い芸人の、渡辺直美が白目をむいて、ガーッと顔をしているのを Facebook に挙げていて、何だと思ったら、「LGBT のみんな、諸君。おまえについて、『ゲイはきもい、おまえは間違っている』と言うやつが出てきたら、ぜひこの顔をするのよといい」というコメントがついている(笑)、それがすごい勢いでシェアされていたんですけども、日本でもどんどん、有名人とか、影響力がある人が出したらいいな、なんて思います。

【日本のLGBTの子どもたちは自殺念慮の%が高い】

日本では、大人になるまでに、LGBTの人たちは、どういうふうに分のことに気がついて大人になるのかという話を次にしたいのですが、結構大変です。いきなり重たい話です。日本の自殺対策の中で、自殺してしまう人のハイリスク層は幾つかあります。例えば、身近な人が自殺で亡くなってしまうと、その人の自殺のリスクは高くなります。アルコール依存症の人も自殺リスクが高いです。もう一つは、セクシュアル・マイノリティの自殺率も高いです。日本のガイドラインには「偏見と無理解によってLGBTはハイリスクです。教職員の理解を促進しないとけません」と書いてあります。



これは日本の宝塚大学看護学部の日高庸晴教授先生の調査です。

これは何千人、何万人の累計調査ですが、ゲイやバイセクシュアル男性の人の65%は自殺を考えたことがあり、14%は自殺未遂の経験があるということで非常に高い。これはトランスジェンダーの人もほぼ一緒に、いじめの被害率も高い。トランスジェンダーの人、特に性同一性障害の診断を受けているような人は、4人に1人が不登校経験者です。学校に行けなくなってやめます。中退して、家にいて、親と仲が悪くなって、家を飛び出して、手術をしないと人生よくなれないと思って、バイトして、そういう人生の人がすごく多い。重たいですが、これが日本の状況です。

なぜこういう状況になるのかということをやっと考えてみたい。多分この状況は結構ショッキングですけれども、あまり日本で知られていないです。どうしたらこうなるのか。スライドにはいじめと書いてあるから、いじめも影響あるでしょうね。人が死ぬことを考える。死ぬほど自分のことを思い悩むというのは何かということ、自分で自分のことを好きになれないということがすごく大きいのです。

【学校では「多様な性」は習わない！】



これは中学校で配布される「心のノート」という教科書の副読本のようなものです。今、小学校、中学校、教科書のどこを見てもLGBTは出てきません。国語の授業で文章を読めば、家族が全部、お父さんがいて、お母さんがいる。て、好きな異性がいるのは自然で、このイラストでは男子生徒と女子生徒が仲睦まじく、夕日をバックに語り合っている。いったい何なんですかね。

後ろに書いてあるのは、「ある調査で『気になる異性がありますか』という質問に、中学3年生では半数近い人が『はい』と答えています。あなたは『はい』『いいえ』のどちらでしょう」。余計なお世話ですよ。しかも、この教科書を見て、多分、恋人がいない人たちは憤ったりするんでしょうね。こういう教科書があつたり、余計なお世話がいっぱいあつたりして、この教科書を見たときに、ショックを受けている子どもたちが一定数います。

何かというと、自分はおかしいんじゃないか、自分は同性が好き、それはヤバいんじゃないかと四六時中考えているような子たちが、こういう授業を聞いていると、すごくいたたまれない気持ちになります。教科書に否定されるというのは、すごく強烈な体験だったりします。

今、私は署名のキャンペーンをやっています。今年は10年に1回の教科書の記述を変えるタイミングです。教科書をつくるもとになっている学習指導要領という、国が決めているガイドラインがあって、それをもとに教科書がつくられています。2016年は改訂なので、ぜひ変えてくださいという署名をやっています。一緒にやっているのが、室井舞花さんという同い年のレズビアンの子です。彼女は中学2年生のときに、例の異性好きになるのが当たり前、みたいな授業を受けて、すごいショックを受けました。

なぜショックだったかということ、同性愛あるいはLGBTなどについての正確な知識を1回も学んだことがなくて、そんなので生きていけるの、私は幸せになれるのか。すごく好きな女の子がいて、好きで好きでしょうがなくて、まわりからは、「えっ、おまえレズじゃないの」って疑われて、「レズじゃないし」と言って、もうどうしよう、どうしようって思っているときに、この授業ですよ。“異性を好きになるのが当たり前です”と教科書に書いてあって、さすがにそれは正しいというふうに思ったんです。目の前が真っ暗になって、教科書に否定される、先生に否定されるということは、やはり私は間違っているのだとそのとき思いました。

そこから何をしたかということ、彼女は女の子を好きになるのをやめようとしてました。頑張っただけで彼氏をつくれたけれども、好きになれないです。興味が持てないです。私はなんなんだろう、生きていけるのだろうか、ずっと暗黒の10代を過ごしました。しかし、あるとき運命の女性に出会って幸せになりましたという、ハッピーエンドはあるんです。彼女がこれを変えたいと言っているのは、今でも同じような教科書を使っていて、異性を好きになるのが当たり前で、それ以外のことは一切書いていなくて、それだけじゃない、学校のクラスというのはLGBTに対して、揶揄したり、差別したり、笑ったりというムードがかなりあって、先生もそれを時にあおったりすることがあって、普通じゃない、当たり前ではない、そんな人は身近にいないというメッセージをさんざん受けている中で、これはないだろうということを書いて、ぜひ変えてくださいというキャンペーンをやっています。

ちゃんとした知識がまず学校の中にはないのです。学校の中にないと、自分が感じていること、自分がすごく大切に思っていることが、とんでもないこと、悪いことみたいに思えて、人に言えないし、すごくつらいんです。自分っておかしいんじゃないかということが、まず最初に来るんです。

【性別を自覚する時期と違和感】

じゃあ、いつ自覚するのかということ、人によって違いはあるのですが、トランスジェンダーの人で、早い人は、物心ついたころから性別に違和感があります。大半は小学校のときには違和感があります。私が、最初に違和感があったのは、覚えている限りだと幼稚園

のお遊戯会です。赤ずきんちゃんの劇をやることになりました。オオカミと猟師の格好いい役を、私は絶対できなかった。理由はなぜか知らないけど、私が選べた役は鳥の役でした。超ザコ雑魚の役です(笑)。鳥が、「赤ずきんちゃん、大丈夫かな」って言っている、そもそもそんな登場人物いたのか、そういう役をやりました。

年中さんになりました。今度は『オズの魔法使い』をやりました。ライオン、ロボット、格好いいなと思ったのですが、私にはできなかった。犬の役をやりました。「犬はどんな服なの」と先生に聞くと、「動物だから裸だよ」と言われて、冗談なんですけれども、私は冗談だとわからなくて泣きました。それが最初の、性別に関する壁でした。結局、男の子はそれができるけれども、自分は女の子というふうに思われていたのでできなかった。

小学校に上がりました。まず男子、女子に分かれます。私は女子でした。そのときには、1組と2組みたいなものだと思っていました。そんなに重要な意味がないと思っていました。いつかは変わるかもしれないとも思っていました。

つまり、自分が女子として扱われることについては、かなり疑い深く感じている子どもだったんです。例えば小学校のときに、作文を書かなきゃいけない授業があって、原稿用紙を配られて、自分が女子だから、「僕」と書くと怒られます。でも「私」って絶対書きたくないです。小学1年生で「私」って女じゃん、だから、絶対に僕とも私とも書けなくて、作文が書けなかったですし、非常に大変でした。

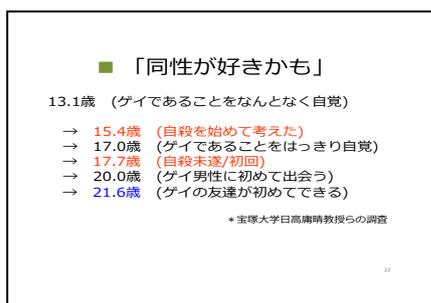
まわりの友達も男子の子だらけで、よかったんですけども、高学年になると、男子の子ばかりと仲よくすると、女子から嫌われるわけです。私は不特定多数の男子と非常に仲がよかった。2人きりで帰って、2人きりでお菓子を食べて、2人きりで体育祭で二人三脚をしました。二人三脚が一番だめだったみたいで、格好いい男子の子と二人三脚したことが、許されなかった。女子に、「おまえ、男好きだろ」と言われて。その後、好きになったのは女の子だったんですけどね、「いやいや、私、女の子好きなんだけど」なんて言えるわけがなくて。だから、結構小学生ぐらいから大変だったりしました。

【LGBT と自覚しても正しい情報が少ない】

自分の場合、トランスジェンダーという言葉を知ったのは高校1年生のときでした。本当に制服がいやでしようがなく、体の違和感がすごく大変で、比較対象がなくて、私は勘違いをしていました。どんな勘違いをしていたかというと、まわりの女の子も、自分と同じように苦しんでいるのに頑張って女の子をやっているというふうに信じていました。みんなすごく頑張って、彼氏の話をつくって、おしゃれをしているのだと思っていました。中3ぐらいまで信じていましたけど、高1ぐらいで、うそじゃないかと思って調べたら、自分はトランスジェンダーで、まわりの子たちは、そんなに苦しんでいなかったことがわかりました。それくらい情報が少ないんです。

【LGBTの自覚とまわりの環境】

では、ゲイやレズビアンの子たちは、いつぐらいに気がつくかという、初恋の時期が来るわけですが、あの人の姿を見るとうれしくて、ドキドキして、もうワーッと楽しい気持ちと、こんなのヤバくないかという気持ちと両方あって、最初に恋をしたときに、すごく動揺したりすることがあったりします。ただ、自分が内面的にそういう感情を持っていたとしても、まわりの人たちは、日常的にLGBTの人のことを、そんな人いない、そんな男同士でつき合うのはキモい、テレビで笑っていたりするわけです。それが実は、ひょっとしたら自分のことなんじゃないかという体験はすごく強烈です。



これは同じ日高先生の日本の調査です。

みんないつぐらいに同性が好きなのに気づいて、いつぐらいにゲイの友達をつくったのかと聞くと、だいたい中1ぐらいのときに、あ、自分はゲイかもってちょっと思った。まわりの男の子はみんな女の子の話をしているけれども、俺、全然興味ない。17歳ぐらいのときにはっきりと、俺、男しか興味ないって思いま

す。この間何をしているかという、努力すれば女の子を好きになれるかな、努力すれば男嫌いになれるかな、とやっています。性的指向は自分の意思では変えられないので、17歳ぐらいのときにはっきりと、これはもう自分は逃げられない、ゲイだとわかります。二十歳ぐらいのときに、初めてゲイの男性に会います。大体ネットとかを通じて、ゲイ同士が集まるサークルのバーに行ったりします。お酒の席に行って、自分と同じような人に初めて出会い、21歳で友達ができる。自殺を考えたり、自殺未遂をしたりします。自分がゲイかもしれないことをはっきり自覚するということが、この社会の中で生きていけない、そんな自分だったら生きていもしようがないと思うようになってしまっているのです。何でそんな自分嫌いになっちゃうのということです。大事なことは、それはその人だけのせいじゃなくて、社会の中で、それがあまりに悪いこととか、よくないものとか、ネガティブで幸せになれないものというふうにみんなが思っている中で、自分がひとりでそうだというふうに思ってそれを受け入れるというのは、とても大変なことだし、さらにいじめがあったりすると、さんざんな経験になっちゃうわけです。

【学校生活：男女分けからの違和感が原因で4人に1人は不登校】

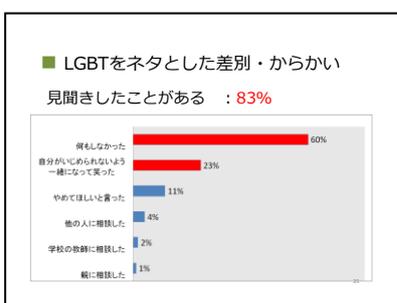
トランスジェンダーの人の場合、とくに、学校は男子と女子に分けるから、本当に嫌なんです。制服も男子、女子に分かれていて、いつも違う性別の中に突っ込まれて嫌な目に遭ったりします。こういうことがあったりすると、もう学校に行かないほうがよっぽど安心だったりして、学校に行けなくなります。新聞に性同一性障害、4人に1人が不登校と書いてありました。別に障害があるから不登校になるわけじゃないです。学校の規則が厳しいから、学校の先生がよくわからなくて対応なくて、学校をやめちゃったりしているわけです。性同一性障害は大変と表現すると、問題の本質がいうふうにくまごまかされているなという気がします。最近になって文部科学省が、ちゃんと性同一性障害の子

どもについて取り組みやましようということの方針に出すようになりましたけど、いまだに結構、子どもたちは学校をやめています。

修学旅行で、うまくいった例もあります。だと、ある子は男子生徒でだけど、自分のことを女の子だと思っていて、修学旅行に行きたくなかった。男の部屋に突っ込まれるし、楽しくないからです。女の子の友達がいる、いいよ、うちの部屋に来なよと言ってきて、どさくさに紛れて、女子部屋に行けることになって、修学旅行がいい思い出になった行ってすごくよかった。、みたいな話があったり仲間が機転を利かしたりすると楽になったりすることも、修学旅行ではあるかなと思います。

自分が中高時代の修学旅行で、一番嫌だったのがお風呂でした。小学校のときはお風呂に入らなかった。中高になって、部活が山登りでした。山って風呂がないんですよ。最高じゃないですか。物理的に風呂がない。山の中には、物理的に男女別のトイレもなかった。ラッキーと思っていたら、最終日に下ってきたら風呂があります。そこでさすがに風呂に入らないと不潔なんです。5日間ぐらい風呂入っていないですからね。私は入らざるを得なくなって、中1のときに初めて同世代の人と、しかも初恋の先輩と風呂に入るといって、何かもういろいろパニックみたいになりました。脱衣所に向かう途中に「はだかの付き合い」というポスターが貼ってあって、甘い心が全て打ち砕かれるような経験をしました(苦笑)。あまりうれしくなかったですけども、そういうことがあったりします。だから、学校の制度を見直さないとなかなか大変です。

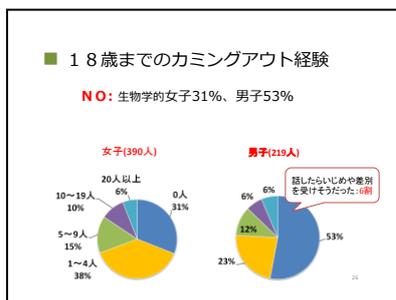
【ホワイトリボンキャンペーンアンケート：当事者の経験】



これはホワイトリボンキャンペーンという団体が調査した609人の当事者の人の経験です。83%の回答者は、LGBTについては否定的な冗談とか、「あいつらホモじゃないか」「おかまじゃないか」みたいなからかいは、83%の人は見聞きしたことがある。結構な割合で経験しているのですが、当事者の人はそのとき何をしているかというと、6割の人は何もしていません。何もできなかった。すくんじやって何もできないんです。だって自分のこと言われているんだもの。23%の人は何をしたかというと、辛いですが、自分が笑わないと、「あいつ浮いてんじゃないの」って言われるから、一緒になって笑っているんです。やめてほしいと言えるのは11%だけ、学校の先生に相談したのは2%だけです。頑張れ、学校の先生。親に相談したのは1%です。言えないんです、相談なんかできません。これは、ちょっとしたタイミングで、かなり日常的に起きています。そのときとっさに何も言えないというのは、言われている対象の人は何も言えない。

じゃあまわりの人はどうなのか。まわりの人はもうちょっと言えるんじゃないかと思いませんか。当事者の人は自分のことだから言えないんですけども、だからこそ、その人1人で言えないから、まわりの人がうまいことやらないと、この状況は変わらないです。

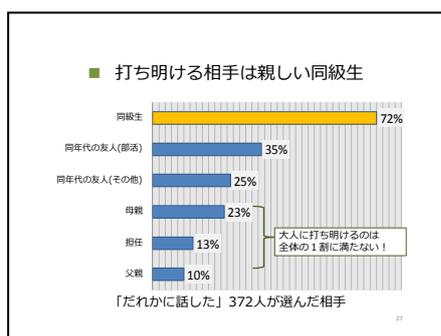
【18歳までのカミングアウト経験】



じゃあ皆さん、カミングアウトはどれくらいしているのですかと聞きました。18歳までにあなたは誰かにLGBTであることをカミングアウトしましたか。男子と女子で分けました。男子コミュニティの人はより言いづらい、女子のほうがちょっと言いやすいけれども、女子の3割は誰にも言わなかった。男子の5割は誰にも言わなかった。言った人数、だいたい1人から4人、ごく少数で

す。何かというと、性別はその人にとってはものすごく大きいことですが、そのことを言えないということは、自分のかなりの部分を言えないという人がこれだけいます。頑張って言えるかな、でも言えないかなというような状況に、特に18歳ぐらいまではみんないて、言えない理由、言わなかった理由は、言ったら自分がいじめとか差別に遭うからという理由が来るわけです。彼らは非常に孤立している。そしてネガティブなコメントはその辺にあふれている。それだから自分のことを好きになれない。

【打ち明けた相手は誰？ —友達の力に一番なれるのは同世代】



ちなみに打ち明けた相手は誰かということ、同世代の同級生です。7割は同級生を選び、3割は昔の友人を選び、なかなか大人に言わない。10代の子は相談するとき大体そうです。何か親友に、カチカチとメールで送ったりという傾向があるかもしれません。LGBTの10代の子たちは、大体的場合は同級生に、同じ年代の友達に言うということです。だから、この子たちがセーフティーネットになるかならないかで、大きく変わ

っていきます。先生が知らないところで、みんなカミングアウトして、そのことを分かち合ったり、あるときは分かち合えなかったりします。

高校生や大学生に話すときは、友達の力になれるのは同じ世代の人です。だから、学校の中でLGBTのことを教えると、みんながそういうことを理解できて、きっと友達の力になれるように変わると思います。なかなか大人には見えにくい。でも、大人は何もしなくていいかということ、全くそんなことはなくて、見えにくいけれども、いるだろうということを前提にして、別に自分はカミングアウトされたことないし、今この環境で、あの人はゲイで、あの人はトランスジェンダーだよとか、別に知らなくても、いるだろうということが前提になればいいなと思うわけです。

最初に、国連やみんなが何のために頑張っているかというYouTubeを見ましたけれども、あの中には、いじめをなくすために闘うとか、プラカードを持っている人がいっぱいいましたけれども、自分が自分として生きていくということは、そもそもものすごく大切なことだし、大変なことだし、これが多様な性、自分の性別を生きるというときに、いつもポイントになってくることかなと思います。

【LGBT といじめ：深刻ないじめと深刻化するきっかけ】

いじめの話をちょっとだけします。これはいじめ全般の話です。LGBTの人に限らずですが、一般的に深刻ないじめというのは、ほにゃららの長さ、ほにゃららの激しさというふうに、これが掛け合わされると深刻ないじめと言われます。ほにゃららの長さは、いじめられている期間の長さです。1日だけ仲間外れにされるのと、10年間仲間外れにされるのだったら、10年間仲間外れにされるほうがつらい。だから、いじめられている期間が長ければ長いほど、その人は独りぼっちで傷を負います。激しさは、いじめる内容です。悪口を言われるのと、殴られるのと、服を脱がされるのと、どれが大変かという、やはりいじめの内容の激しさというのは深刻度につながります。

一般的にいじめが深刻化する場合は何かきっかけがあるというふうに言われています。そのきっかけは何か。それは、学校の場合であれば、大人が、学校の先生が見過ごし、さらにその人を仲間外れにしても問題ではないというゴーサインを出してしまうと、いじめは深刻化します。学校でなければ、それは力を持った上司だったり、影響力のある人になります。日本社会ではテレビもそうと言えます。影響力を持った人がいじめのサインを見 overs と、それは深刻化します。逆に影響力を持っている人が止めれば、長期的ないじめや、より激しいいじめというのを防ぐ可能性が大いに高まります。

何事もそうだと思いますけれども、いじめって、最初はよくないことだと思って始まります。ばれたら怒られるかなとか思って、隠れてこそこそやっています。それがどんどん、いろいろな場所でされるようになる。堂々とされるようになるというのは、最初に、学校であれば、子供が先生の前でちょっとからかったりします。それで、様子を見てオーケーそうだったら、ぱっと広がります。だからそこで止めないとだめなんです。

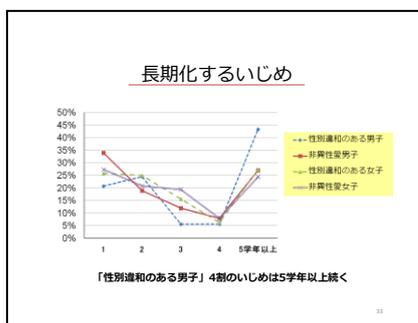
LGBT といじめの話ですけど、冗談にしたり、からかったりすることって蔓延しています。当事者の人は怖いから、何もできないです。自分のことを言われている。カミングアウトしてたり、してなかったりしますが、耐えられないですね。というときに、力を持っている人は誰だろうということ、力を持っている人がとめれば状況は変わるんじゃないかということちょっと考えてみたいんです。

【いじめや暴力の経験】

	性自認が男の子	非両性愛男子	性自認が女の子	非両性愛女子
身体的な暴力	48%	23%	19%	10%
言葉による暴力	78%	53%	54%	45%
性的な暴力 (服を脱がされる・恥ずかしいことを強制)	23%	12%	12%	7%
無視・仲間はずれ	55%	34%	51%	57%
上のような経験はない	18%	35%	30%	36%

細かい数字ですが、特にトランスジェンダーの人はいじめられています。男で生まれて、男らしくない人はめちゃくちゃいじめられています。見ると、殴られたり、服を脱がされたりという、深刻ないじめの率が非常に高いです。言葉による暴力は78%と非常に高いです。ゲイの人が多くはすけれども、特に男子で男らしくないということはものすごくいじめられる。

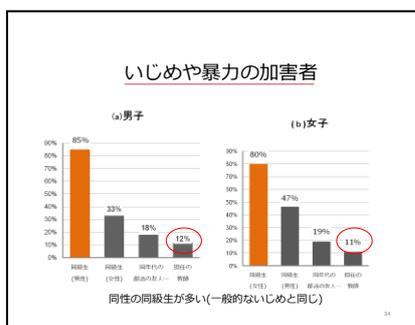
【長期化するいじめ】



いじめは長期にわたります。5年以上いじめられたなんていう人も結構います。日本の大半のいじめは1年以内に終わるとされているのですが、確かに1年続いてからだいぶ下がっていくのですが、いじめられている人がずっといじめられているような状況は、自分のことを好きになれなくなったり、すごく影響を与えたりします。要するに、LGBTの人へのいじめが多く、深刻化しています。なぜそうなっちゃうかという、力を持っている人が、そのことを見過ごしちゃっている

とそうになってしまう。だから、力を持っている人は、そのことをとめないといけないです。

【いじめや暴力の加害者】



同級生が大体加害者ですが、学校の先生が加担したりもしてします。相談に行くと、「おまえだってもうちょっと男っぽくすればいいじゃん」なんてことを言ったりします。これは本当に、みんなの意識を変えないとつらいし、特に力を持った人が、「それはおまえもよくないよ」と言わないでほしいですね。こういう状況です。

今はずっと子どもの話をしていました。

大人になってからどうかというと、大人になってからもあまり変わりません。差別的言動は70%、これは職場の話です。理解してくれる人は、43%の人がいますと言っているから、逆にわかってくれる人も半分ぐらいはいるんですけども、こういう、何かちょっとばかにしたような発言というのは、日本にはかなり蔓延しているのではないかと思います。

【Googleの方針：多様性は力なり】



これはニューヨークのGoogleにご飯を食べに行ったときのものです。私たちは貧乏旅行をしてニューヨークを、いろいろなLGBT団体を回って、屋台でご飯を買って、YMCAの1階でゴソゴソ食べるという旅をしていました。お店に入ってご飯を食べたのは3回しかなくて、そのうちの1回です。一緒にご飯を食べてしゃべっている人はGoogleの社員の人で、ゲイの人ですけども、GoogleにはGayglersという、ゲイのGoogle社員のネットワークがあって、GoogleというのはLGBT

の人をフェアに扱って、LGBT に対するポジティブなメッセージを会社として出すということに、ものすごく情熱を注いでいます。なぜかというと、一言で言えば、差別すると効率が悪いからです。差別をすると、優秀な社員はやめていきます、世の中悲しくなります。でも、多様性を祝福する文化があれば、いろいろなアイデアが出てきて、LGBT に限らず、いろいろな人がいろいろなことに気がつけば、よりよい社会をつくれるというのが Google の考え方です。だから、Google はすごくフレンドリーなんだよということを日本の大学生にしゃべっているところです。

いじめの話をついでに話してきましたけれども、そもそもそういうことをしては、みんなハッピーになれないんじゃないかということに気がつき始めている人たちもいたりします。

Facebook、Apple、Google、今いろいろな会社で、差別をなくしてもっといろいろな人たちが生きやすくなるようにしようよという流れがあります。これは、「いじめや差別って、実は誰のためにもならないか」ということに気がつき始めているからです。そういうふうに考えるより、違いは違いとして認めた上で、みんなが自分の生まれ持ったアイデアや個性や能力、チャレンジしたい気持ちを大切に合わせるほうが大事ではないかという話を会社ではしています。

「いじめはよくない」と言うと、マイナスをゼロにするみたいですけども、そもそも違いがあること、出る杭をボコボコ打ちまくっているような社会にあまり未来はないなという感じです。

【世田谷区職員互助会の取り組み】

ニューヨークで Google の素晴らしい話を聞いて、外資系でこういう流れがあって、このとき、ニューヨークに行ったときに Google の話をしながら、それは Google という特殊な会社、外国の企業だからできるだろうけれど、なんて思っていたら、去年、世田谷区で、区の職員の互助会が LGBT のことをちゃんと考えようよとなりました。世田谷区ではこれまで異性同士の人が結婚するときに結婚祝い金を出してきたのですが、別に同性カップルの人に出してもいいんじゃないかということ世田谷区の公務員の互助会が考え出して、同性カップルにも祝い金を出そうというふうに決まりました。こういういろいろなことをフェアにすると、職員にやる気が出てくるし、そのほうがいいんじゃないかというふうになった例です。

この互助会の人、これを決めるときにすごくいいことを言っていました。「互助会というのは仲間が悲しいときには悲しいねと言って、うれしいときにはうれしいねと言って、言い合えるのが互助会だ。」だから、当たり前のことしているだけだ」というふうに言ったんです。フェアに扱わないということはモチベーションを下げるし、フェアに扱うということはモチベーションを上げるし、もうかるか、もうからないかという話だけじゃないですが、仲間としてやっていくのだったら、フェアに扱うのは当たり前でしょうという考えです。いろいろ模索していくというのがいいことかなと思います。

ここまで、大人になるまでの話と、ちょっと大人になってからの話もしてきました。たんですけども、いじめや差別、自分のことを好きになれないというのは、社会にいろいろな

構造があってそういうふうになっているんだという話です。

でも、ちがいをフェアに扱えばったりすると、それはみんなのためになる。そし、そもそもいじめはみんなのためにならないんじゃないか、ということですね。みたいな話もちよつとしました。

【いじめの連鎖を止める方法を考えよう】

では、これからみんなどうやってこの多様性というのを考えていったらいいのかということ、最後にちよつと考えたい。大変な話をいっぱいしてきましたけれども、どうやったらこの状況は変えられるかは直るのでしょうか。この悲しい展開はどうやったらとまるのでしょうか。ネガティブなイメージが蔓延していて、子どもたちは、自分が気がついたときには、それがとんでもないことだというふうに思わされて、言えなくて、さらに・・・という連鎖はどうやったら止まるのでしょうか。結局、その問題の当事者の人が自分のことのために立ち上がる、自分だけで声を上げるというのはすごく大変です。だから、何とかして自分だけじゃなくて、まわりの人がそれに気がついたり、お互いに力を貸したりすることがすごく大切なことになっているんです。

【ピンク・シャツデー】

きょう紹介したい動画がもう1つあります。この「ピンクシャツデー」というのは何かというと、ある学校でいじめをとめるために立ち上がった人がいたんですけれども、その人がどういうふうにいじめをとめたかという話です。「ピンクシャツデー」といういじめをとめる記念日があるんですが、それが示唆に富んでいるので、ちよつと見てほしいんです。

【ビデオ上映】

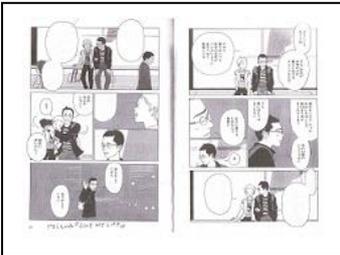
○遠藤 これは、ピンクシャツデーがどうやって始まったかという物語です。2007年のことです。カナダのはずれにある、ノバ・スコシア州という場所でのことです。中3の子が、ピンクのポロシャツを最初に学校に着て来ました。そうしたら、一部の子たちが、「アイツ、まじ、キモくね？」みたいなことを言い始めました。それを聞いた2人の少年が、「何かしないとまずくないか」と思いました。「いじめをとめたい」と思いました。そこで、彼らはディスカウントショップに行って、50枚、ピンクのシャツを買いました。そして、メールを打ちまくりました。名づけてこのプロジェクトの名前は「ピンクのと海作戦」ですという名前です。

次の日になると、生徒たちはみんなそのピンクのシャツを着て、その子を励まそうとして学校に来ました。いじめられた子の味方になるためです。みんながピンクのシャツを着てきたもので、いじめたやつらの居場所はなし、それで、いじめがとまりました。いじめっ子は、自分たちが支持されると思っていたんですけど、「そんなの面白くないし」と言われると、以外とシュンとなっちゃうんだよということを、始めたデーヴィッドという人が言っています。今では、ピンクシャツというのは、いじめに反対するシンボルとして使われています。

どうやってピンクシャツデーが始まったかという話でした。

このピンクのシャツを着ていじめられたきた子が、果たして別に LGBT だったのかはわかりませんが、このエピソードはすごく気に入っています。何なのか、わからないですけども、何かすごく、いじめっ子をやっつけるのもそうだし、その子の味方にみんながなるということをもみんなで示したという、すごくかわいらしくて面白い方法ですねくて、いいなと思いました。だから、いじめられている子とか、「あいつ、変じゃない？」と言われている子のことを、べつに変じゃないよと示したわけですね。これがいじめをとめた1つの例です。

【グループワーク：漫画「Love My Life」より台詞を考えよう】



きょうお配りしている漫画があります。これは『LOVE MY LIFE』という、やまじえびねさんという人が描いた漫画です。ゲイの「タケちゃん」と「いちこさん」という人がご飯を食べています。二人がご飯を食べているときに、後ろの席でゲイのことをすごく悪く言う会話が聞こえてきます。「ところでクラスに林っていうヤツいるじゃん。あいつやべえよ、超やべえ」。

ゲイ雑誌を持っているクラスメートのことをみんながすごく悪く言っています。「あいつ、ホモだぜ」「ああ、やっぱ、だよな。あいつ全然、女に興味示さないもん」、「この前、たまたま席があいつの後ろでさ、あいつがカバンから教科書出すときにやべえもん見ちゃった。表紙にバーンと野郎の裸が出ている雑誌」、「うそ、げっ、マジかよ、気持ちわりい、変態じゃん」「ねえ、何なんだろうね、あれってさ」。タケちゃんは顔がすごく真っ赤になっちゃって、タケちゃんは言います。「ひどいことを言うよね。でも、あれが大半の人の僕らに対するイメージなんだ。だから、僕らはいつも自分の正体がバレないように息を詰めて緊張している。情けないけど、たったあれしきのことで僕はもう身がすくんでしまう。あれは僕のことじゃない。でも、僕にはそうは聞こえない。怯え続ける人生なんて最悪だ」と言ったところで、いちこが何か言いますが、消しました。何かしゃべっています。そうすると最後に、「ああ、なんか、いちこ、彼氏に会いたい！」と言って、とりあえず励まされたんですかね。例えば、こういう会話を聞いたときに、どういうセリフを言えば、その人が孤立している状況を防げるだろうか、隣の席の人か近くの席の人と、このセリフを埋めるというのをやってみましょう。何か今までいろいろと大変な話をしてきたんですけども、実際、まわりの人のどういうセリフが言えるのかなということを考えてみましょう。

【話し合い】

○遠藤 そろそろ聞いちゃおうかな。発表したい人。「私がタケちゃんを励ましたい」、どうですか。

○参加者1 やっぱり「あなたは悪くない」という一言だと、私は思っています。

○遠藤 ありがとうございます。もしよかったら、黒板に書いてくれるとうれしいな。

ースタッフ 黒板にセリフ列挙するー

○参加者2 同じようなセリフですけど、「いいの、いいの。タケちゃんはタケちゃん。私は大好きだよ」。

○遠藤 「大好き」が来ました。次は、どなたかどうですか？私がタケちゃんを励ましたいって人は？。

○参加者3 「ゲイである部分も含めて、タケちゃんが好き」。

○遠藤 「ゲイである部分も含めて、タケちゃんが好き」

○参加者4 下のほうのマスで女性が言っている言葉が「いっそのことカミングアウトする」、上のほうの女性の言葉は、「隠れているから言いやすい」。

○遠藤 目の前にいるとわかったら、なかなか言えないですからね。

○参加者5 「人は決して一人ではないし、あなたは今、孤独を感じるかもしれないけど、私という味方がいるじゃない」。

○遠藤 「私という味方がいるじゃない」が来ました。

○参加者5 前後のセリフを考えて、ちゃんと埋めようと思ったんですけど、「でも、僕にはそれは聞こえないんだ」というふうに言っているの、彼が結構、あの会話を意識してしまっているということを受けて、「タケちゃんにとっては、あの会話は変に意識することが多いし、嫌なふうに聞こえることがあるんだろうけど、タケちゃんの個性というのを私はわかって理解してあげたいと思っているよ。だから、そういうつらくなるときには、寄りかかりたい人に好きなだけ寄りかかればいいんじゃない」というふうに言えば、「ああ、なんか、いちこ」というふうにつながるんじゃないかな。

○遠藤 ありがとうございます。素晴らしいですね。この漫画は『LOVE MY LIFE』という漫画なので、このセリフにはこういうセリフでしたという、正解があるんですが、何が正解ということもありません。一応、漫画の中のセリフはこうです。「タケちゃん、私たちはただ好きになった人と愛し合っているだけだよ。一緒にいたいだけだよ。どんなことにも理解しない人は必ずいるけど、間違っていることをしていないなら、味方になってくれる人だっているはずなんだ。だから、私は怖くない」というセリフです。

○一同 おお。

○遠藤 べつに何が正解ということでもないの。この漫画はすごくいい漫画なので、ぜひ読んでみてください。実は、いちこはレズビアンなんです。いざこういう場面があったり、誰かに何かをカミングアウトされたりしたときに、こういう人がいるといいかなと思いました。

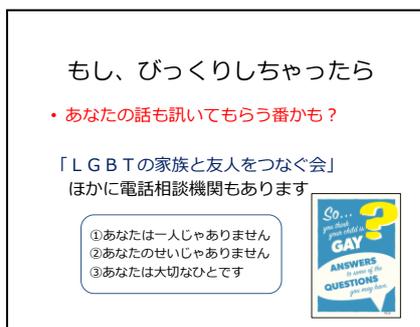


どういうふうにしたら、よりいい環境をつくれるかという、例えば、学校だったら、LGBT についてのポスターやチラシを置くと、わりと味方がいるよというメッセージになったりします。保健室に漫画を置いたりすることによって、一人で悩んでいる人は味方を見つけやすくなるので、ものを置くというのはかなりいいですね。「“好き”にはいろいろなカタチがあります」というポスターは、学校で貼

ってもらったらいいかなと思います。

これはある学校の下駄箱の前に貼ってあるもので、愛ダホ！で集めたメッセージを貼ってくれている学校があります。いろいろな人がいるんだよということを伝える展示をしている学校があったり、ものを飾ったりすると、すごくいいみたいです。

【カミングアウトされて、びっくりしちゃったら】

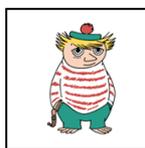


もし、身近な人からカミングアウトされてびっくりしてしまったら、どうしたらいいか、その人と付き合いしていく中でどういうふうにしたらいいだろうと悩むことがもしあれば、当事者の人のためだけではなくて、家族やその友人にあたる人が集まって話す会があります。特に子どもからカミングアウトされたら親御さんは結構ショックを受けたりすることがあるので、こういう会につながりことで、つながることで、その人自身の話せない感じ、混乱している気持ちがやわらぐのではないかなと思います。こういうグループもぜひ活用してもらえたらいいかなと思います。この「SO... YOU THINK YOUR CHILD IS GAY?」というのは、「息子がゲイだと疑っているあなたに」という冊子で、アメリカのLGBTの家族の会の冊子です。親御さんがパニックになったりすることも結構あるみたいで、親の会に行くと、「そうは言ったって、子どものことを受け入れられない」という話があったりします。「最近、子どもからゲイだとカミングアウトされた。なぜ子どもは私にそんなことを言うのだろう、そんなことは黙っていてほしかった。一生、墓場まで持って行ってほしかった。なぜあの子はそんなことを私に言って、こんなに悩ませて」ということを言っている親御さんがいて、その人の横で、お母さんに言いたいんだけど、どうしようかとずっと言っているレズビアンの子がいて、それぞれの話を聞いていると、お互いに何となく、「だから息子は私に話したんだ」ということがわかったりします。親に言おうかなと思っている子どものほうも、「お母さんはこういう気持ちになるけれども、ちゃんとこういう場所もあるんだ」ということがわかったりします。やっぱり家族はどうしても閉じていたりするので、「うちだけが」みたいなふうに思ってしまうんですけども、いろいろな家族の話を知ると、そうでもないかなということがわかるかなと思います。

「四つ葉のクローバーの詩」というのがあって、だいたいクローバーというのは三つ葉ですけれども、中に四つ葉のクローバーというのがあります。ある親御さんが、「四つ葉なのはおかしいから三つ葉にしてしまおう」と思ったんですけども、四つ葉のクローバーは四つ葉のクローバーでよかったということがわかったというLGBTの子どもを持つ親御さんの詩が、これはニューヨークの家族の会で会報に書かれていたことがありました。人と違うことを家族自身も受け入れるのには時間がかかると思います。

最後に、これはどんなこともそうですけれども、いろいろな人が頼りにできたり、信頼できたりする人になるというのはどういうことかということ、相手のことを決めつけない、その人自身が独りぼっちにならないことだと思います。その人自身が、何か困ったことがあった

ら仲間に助けを求めたりできると、友だち、子ども、いろいろな人の力になれるかなと思います。みんなのために、みんなが生きやすいようにする、みんなが生きやすい社会をつくるためには、物事を決めつけないで、その人自身がつながれる人がもっと増えるといいんじゃないかと思っています。



一番最後に、このしましまの服を着ている子は、ムーミンに出てくる「おしゃまさん」というキャラクターです。トーベ・ヤンソンの長年のパートナーだった女性がモデルになっています。おしゃまさん、“トゥーティッキ Too-Ticky” といいます。ムーミンという物語には性別不詳のキャラクターが大量にいるんです。この人だってどっちかわからないですよ。そこで子どもたちは大量に、ファンレターで書いています。「このキャラクターは男、女？」とたくさんワースとファンレターで、ムーミンの会社を書いてきます。



ムーミンの会社は何と答えるかという、答えない。「それより大事なことがある。ステロタイプよりも、ひとりぼっちじゃないかということのほうがムーミンには大事なんです、以上」と言うそうです。

きょうはいろいろな話をしましたけれども、「LGBT とは」も大事なんです、結局、言いたかったことは、人をひとりぼっちにしない、違いは一人一人あるということ、みんながどうやって考えられるんだろうか、助け合っていけるんだろうかということを考えられればいいんじゃないかなと思います。

【質疑】

○質問者1 ことは4年に一度の教科書の改定の年で、私は教科書以外の学校の図書館とか、各皆さんが住まわれている行政の図書館に配架をしていただきたいという願いをしたいです。LGBT に関する図書を配架することによって、LGBT のことをよく知らない大人の方やお子さんにも知る機会というのが増えますので、ぜひお願いしたいと思っています。

あともう1つは、先ほどトランスジェンダーの修学旅行のお話がありました。実は昨日ですが、東京にある銭湯組合にトランスジェンダーの方のためのイベントを組んでくれないかという願いをしてみたんですが、今のところまだ返答はございません。実は、愛媛県でゲイカップルの方、外国の方が宿泊されるときに拒否が行われましたが、その後、旅館業法がありますので、それでLGBTの方のゲイカップルの方が泊まれるというのはできるようになりました。

全日空がマイレージサービスをLGBT向けに、これは同性パートナーを組まれた方のみですが、証明書を持っていけば、マイレージをつくることのできるんです。できれば旅行業者の方に、これは奈良県の旅館組合が、LGBT 向けの旅行プランを発表しましたので、ぜひ全日空としても、そういったプランを出してほしいという要望は出しました。よろしく願います。

○**遠藤** ほかに質問がありましたら、全部出していただいて、後でまとめて答えます。はい、どうぞ。

○**質問者 2** 用語についての質問が2つあって、LGBT という言葉をきょう多用されていましたが、私はちょっと英語圏にいたことがありました。私がインターネットで知り合ったイギリス人の女の子は、彼氏がいるんですけれども、「パンセクだ」と言ったんですね。その後、調べたのですが、ちょっと日本語の情報が少ないので、遠藤さんのほうからパンセクシュアルの定義を説明していただきたいのですが。

あとは、遠藤さんの意見を伺いたいことで、ウィキペディアなどに、最近タグ付けがあるじゃないですか。ゲイの人物です、LGBT の人物ですと。私が好きな作家やアーティストで、生前にカミングアウトしていないのに、ゲイの人物とあって、それについてどうお考えか知りたいです。

○**質問者 3** LGBTQ+のプラスことを考えるときに、LGB と T を分けて考えるべき、そうすべき、そうすべきではないと、いろいろ意見があると思います。海外でもストーンウォール、日本でもストーンウォールジャパンという LGBTQ の人をサポートする団体がありますが、だいたいそういう団体はトランスジェンダーの人も LGBTQ+プラスの人も全部ひとくくりにしてしまっていると思います。遠藤さんはそれについてどうお考えかということをお聞きしたいと思います。

○**質問者 4** 小学校で教員をしております。つい先週、保健の授業で初めて LGBT を扱って見たんですけれども、国が国なら犯罪になってしまうのですね、知らなかったです。私も1月まで全然知らないというか、関心がない人生を送ってきて、たまたまそういう講習会に出るきっかけがあって、いろいろな、子どものころに受けるいじめや、心の傷のことを知ったので、知らないより知っていてほしいという気持ちで、自分はそんなに勉強できていないのんですけれども、とりあえず子供たちに話をしました。

今の方の質問と重なるところもあるんですが、順番に教えていくときに、L、G、Bという、ここで一区切り、みたいな状況なんだけれども、子どもは、言葉は「LGBT」ということで、子どもたちの頭に入るときには、「何なのこのセット」という感じがあるので、その辺のラインという言い方はおかしいんですけれども、どういうふうに子どもたちに伝えてあげるのがいいのかなということ。

あと、もし遠藤さんが小学校5年生の子どもたち、初めて LGBT という言葉に出会う子どもたちに向かってどんなメッセージを送ってあげたいかということ、教えていただければと思います。

○**質問者 5** 以前、LGBT についての本を読んで、実際にその当事者の方にお会いしたいと思ってサークルを調べたことがあるんですけれども、数はたくさんあったんですが、当事者の方しか入れないというところが多くて、実際に行動したいと思っている、当事者ではない人間からすると、そちら側からも受け入れられていないのかなという感じをすごく受けるのですが、そのあたりは、当事者の方々はどう思っているのか知りたいです。

○**質問者 6** レズビアンや、ゲイの定義において、初恋の相手というのはそれで決められてしまうのかというのが1つ疑問に思いました。例えば、最初は異性を好きになって、けれど

も、何かを経るにつれて同性のほうが好きになったり、中間の性などいろいろあると思うんですけども、そういう子を好きになっていって、そっちの子のほうが、例えば好きになる。かつての恋愛よりも好きになれたというケースも往々にしてあると思います。いわゆる後天的なゲイや、レズビアンというのは認められているのかをお聞きしたいです。

○遠藤 まず、LGBT についての本を図書館に入れてほしいというのは、本当にそう思います。入れてください。要望というのは、多分、図書館にリクエストを送るんですよね。ぜひみんなでLGBTの本を要望したほうがいいと思います。

○質問者 1 新座市の図書館では、市長と話をしたんですが、人権推進課とも話をして配架してもらいました。

○遠藤 そうなんですね。新座市、すばらしい。グッジョブですね。

あと、銭湯の話がでていると思いますが、確かにお風呂好きのトランスジェンダーの人は、やはりお風呂に行きたい気持ちがあっても入りづらいのはあるでしょうから、トランスジェンダー歓迎の日があってもいいだろうし、そういうのはいいなと思いました。

LGBT の人を対象としたビジネスというのは結構いろいろあるんですけども、旅行会社がやっているものが多いです。気兼ねなくお出かけできるようなプランの相談に乗ってほしいというニーズはありますね。

言葉の話が幾つかありました。まず、「パンセクシュアル」の話がありました。「パン」というのは「すべて」という意味ですね。性別を問わず全ての人人類が恋愛への対象になり得るのがパンセクシュアルです。バイセクシュアルとほとんど一緒です。バイセクシュアルというのは、男も女も好きになるという意味です。パンセクシュアルというのは、「バイ＝ふたつ」という言い方が、が、「男も女も」というのが、例えば、男でも女でもない人のことを含めていないみたいに聞こえるむきがあることから、い人も世の中にいたりするから、バイっていうと、2つしかないみたいじゃないかというので、「パン」と言う呼び名が普及しはじめたんです。とはいえ、パンセクシュアルと言っている人も、人によって好きこのみというのがあるから、べつに全人類を愛せるわけではないと思うんですけども、バイセクシュアルの人とかをパンセクシュアルと言い換えるをそういうふうにいうことがあるという説明でだいたいあっているかなと思います。

LGBT というくくりがいいのかという話が幾つかありました。って、一番長い説明で、LGBT IQ AA なんちゃらこうちゃら、meetings とかいうものがあるらしいんですけども、私はよくわかりません(笑)。並べればいいというものではないと思います。くて、何が言いたいかという、例えば例を挙げるとすると、「LGBTI」という言葉が一時使われていました。「I」というのは何かというと、「Intersex」という言葉で、Intersex というのは何かというと、体の性が典型的な男女ではない、性分化疾患という病気の人がいるんです。性分化疾患の人のことをLGBTに入れて運動をやろうという考え方の人は今もいます。ただ、性分化疾患の人は、自分のことをセクシュアル・マイノリティだとは思っていない人がほとんどです。例えば、自分は女性として育ってきたけれども、生理が来なくて、調べたら精巣があったという人が自分のことをどう思うかという、例えば、子どもができない女の人だと思っていたりします。セクシュアル・マイノリティというアイデンティティはあまりなくて、そこで、

例えば LGBT の人がその病気の人のことをあまりよく知らずに、「あの人は男でも女でもないんだ」と言ってしまった時期というのが実はありました。LGBT の運動の中で、その Intersex とか性分化疾患の人のことを知らずに、ある意味、利用してしまった時期がありました。そういうこともあって、今では LGBTI というのだったら、ちゃんと Intersex とか、そういうことも調べて、その人たちが実際何に困っているのか、その人のために一緒に闘えるようなことをするのだったら、まだわかる。だけれども、並べればいいというものではないのではないかということをしごくいられています。

漫画で『I S 男でも女でもない性』という漫画がありましたけど、って、体が生物学的に 100%男性とか、100%女性じゃないという状況の人はみんな、別に心も「中間」間なのかといったら、そんなことはなくて、大半の当事者の方は自分のことを男だと思ったり、女だと思ったりしているわけです。そういう人のことを、「この人は中性だ」みたいなふうに部外者が圧勝して着てしまった言ってしまった時期があるという歴史があります。並べるんだったら、ちゃんとその人のことを考えてやらなければだめですよ。

LGBT の後にいろいろと並べることについてもそうで、では、今 LGBT+Q プラスとか、いろいろな言葉で自分たちのことをいっている団体があるんですけども、実はトランスジェンダーのことが全然わかっていなかったりするところもあります。ちなみに私は LGBT という言葉を使っているのは、特に子どものことを話すことが多いからです。子どもというのは、自分がレズビアンなのか、ゲイなのか、あるいはトランスジェンダーなのかということを、特に小学生ぐらいだとほとんどわからないです。ある調査では、12 歳ぐらいまでの子どもの場合、自分の性別に違和感を抱いて、「男の子で生まれたけれども、自分は女だ」と答える 12 歳以下の子どもが、その後 10 年間でどうなったかということ、トランスジェンダーとして生きていたのはごく少数で、ほとんどの人はゲイとかバイセクシュアルとして生きていたという調査結果があります。その人が大人になるにつれて、例えば、誰と一緒にいるのが居心地がよくて、受け入れられやすいのかということが、必ずしもトランスジェンダーでなかったりすることもあります。子どもがいろいろ揺れ動いたりすることもあるということから、子どもの話をするときには LGBT を全部教えないと難しいかなということで、LGBT をいう言葉を使うことが多いです。ただ、運動の場面によっては、トランスジェンダーのところだけ言ったりします。何を伝えるかという場面によって変えればいいのではないかなと思います。

ウィキペディアのタグ付け、そんなことがあるんだと今知りました。本人が言いたくないのに、まわりの人がバラしてしまうというのはあまりよくないと思います。本人がカミングアウトしていてもあまり知られていなかったりすると、そのことを言いたくなったりすることがあって、私が好きなアーティストでニルヴァーナのカート・コバーンという人がいます。彼はバイセクシュアルで、生前、同性愛嫌いの人のことを苦々しく彼は思っていて、「あいつらライブに来なきゃいいのに。俺たちのレコードも買わなきゃいいのに」と書いていました。カート・コバーンがバイセクシュアルだということをもっとみんなに知ってもらいたい、という気持ちが勝手にわいてきます。彼はべつにオープンだからいいんですが、そうい

うタグ付けしたくなる気持ちもわからなくはないですが、その人には言いたくない、その人の人権があるわけだからと思います。

あと、小学校5年生にどう話したらいいか。難しいですね。多分、LGBT とはという話ではないと思います。だから、人がそれぞれ好きな人と一緒に生きていって、例えば、それは必ずしも男と女のカップルだけじゃないかもしれないし、世界にはそういうカップルだけが結婚できるわけではなくて、男同士、女同士で結婚できる国もあるし、性別を変えて生きている人もいるし、みんなにとってみんなが自分らしく生きるということについて考えるということが大事だと思います。

ある中学校でやった実践だと、ゲイの人を呼んで、みんなに質問を書いてもらうんです。みんな、質問攻めにします。「デートでは何をしますか」、「どんな人が好きですか」、「いつ気がついたんですか」、「結婚したいですか」と。それを見て、ゲイの人はみんなに質問をします。「みんなはどんなデートをしたいですか」と言うと、「私、遊園地」、「私、家がいい」、「デート、何していいかわからない」と言って、ワッとなる。「やさしい人が好きな人」って聞くと、「ハイ」とみんな言う。それをやっているうちに、ゲイ対そうでない人、ではなくて、みんなそれぞれ違うということがどんどんわかっていくわけです。そっこのほうが意味があるんですよ。「じゃあ、異性が好きっていつ気がつきましたか」って聞くと、みんな、「いや、そんなの俺、当たり前だと思っているし、気がついたことないし」なんて、そこで初めて考えたり、そういうことがすごく大事だと思います。「LGBTってこういう人がいます」というだけではなくて、みんなもいろいろじゃないかということがセットで伝わるのが一番大事だと思います。

当事者だけのサークルが多いのはなぜかという、当事者以外の人があると、場が安全でないというふうに感じてしまう人が一部いるからですね。特に、自分がカミングアウトしていないようなタイプの人だと、クラスの人や、身近な人が、気軽に来られる感じだと、自分がそうだとバレてしまうからというので、あえてクローズド(閉ざされたコミュニティ)にしている。クローズドでメンバーを制限しているサークルも確かにあります。ただ、先ほどの「LGBTの家族と友人をつなぐ会」のように、どんな人でも来られる団体もあるので、クローズドの団体と、だれでも来られるそういう団体の両方あるのが大事かなと思います。

初恋の人はべつにそうじゃないという話は確かにそうなんだけれども、後天的か、先天的かという話をすると、後天的というのは非常に言いづらいですね。確かに、例えば、30歳まで異性と付き合っていたが、30歳を過ぎてから同性と付き合い始める人がたまにいます。それは本人の意志ではなくて、そういうふうに変遷していった。それはその人の性別なので、何かの影響があって後天的になるというものでも、多分ないかなとは思いますが。変わることはあります。バイセクシュアルだったのかもしれないし、その人の中で変わったのかもしれない。

○司会 遠藤まめたさん、本当にきょうはどうもありがとうございました。皆さんも遠くからどうもありがとうございました。

以上 (終了 / 2時間 13分)